

札幌リハビリテーション専門学校

学校関係者評価報告書

(平成 28 年)

学校法人西野学園

札幌リハビリテーション専門学校

学校法人西野学園 札幌リハビリテーション専門学校 学校関係者評価について

学校法人西野学園は、平成24年度より学校が自ら行った「自己評価」結果を、本学園のホームページ上に公開しております。

さらに、平成26年度より本校に関係のある外部の方々からご意見等を頂き、円滑な学校運営を図るべく「学校関係者評価」を実施いたしました。学校関係者評価委員会では、本校の卒業生、関係業界の方々より、多くの貴重なご意見・ご要望を賜り、改めて学校関係者評価の重要性を認識した次第です。ここに学校関係者の内容についてご報告いたします。

今後ともより良い学校運営、教育活動を目指し、学校関係者の方々との連携・協力をはかり、教職員一同尽力してまいりますので、皆様方のより一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年10月

札幌リハビリテーション専門学校 校長 水本善四郎

「学校関係者評価」の実施

学校関係者評価委員会

今回は「平成27年度 学校自己評価」に基づき、学校関係者評価委員の方々に評価して頂きました。

学校関係者評価委員会で評価して頂いた結果に対して、速やかに改善策を構築し、広く社会のニーズに適した学校運営や教育課程の編成を組織的・継続的に取り組んでいく所存であります。

その内容について要約の上、以下の通り報告いたします。

学校関係者評価委員 名簿

氏名	所属
梶山 優洋	元北海道千歳高等学校校長
杉原 俊一	医療法人秀友会 札幌秀友会病院 公益社団法人 北海道理学療法士会 常任理事
吉岡 英章	医療法人社団憲仁会 牧田病院 公益社団法人 北海道作業療法士会 副会長
佐藤 喜亮	社会医療法人社団三草会 クラーク病院
高松 尚徳	医療法人清仁会 北海道内科リウマチ科病院

開催日時

第1回 平成28年6月30日(木) 15:00~16:30

第2回 平成28年9月15日(木) 15:00~16:30

平成27年・28年度 自己点検評価項目		平成27年度 自己点検自己評価	平成28年度 自己点検自己評価	平成28年度 学校関係者評価委員会による評価	
I 教育理念・目標	1	理念・目標・育成人材は定められているか	4.5	4.4	概ね良好である。ただし、学内での共有は図られていても、学生や保護者に十分周知されているかの検証はなされていない。今後社会のニーズを踏まえた構想を、教育理念と併せて示すことで、よりよい教育環境構築につながると思われる。
	2	社会のニーズ等を踏まえた学園の構想を抱えているか	3.5	3.6	
	3	理念・目標・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか	4.1	3.5	
II 学校運営	4	目標等に沿った運営方針が策定されているか	4.4	3.9	教育運営組織が確立しているが、より一層の機能連携が求められる。教育活動に関する情報公開は、パンフレット、ホームページ、体験入学等を通じて適切・効果的に行われている。
	5	運営組織は明確にされ、有効に機能しているか	3.8	3.6	
	6	情報システム等による業務の効率が図られているか	3.8	3.5	
	7	学園内総合力を高めるための連携と協働体制の確立が図られているか	4.1	3.7	
	8	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4.3	3.8	
III 教育活動	9	教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関として修業年限等に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4.2	3.9	教育課程の編成は、外部の専門職を招聘して、現場や時代の要請を反映する内容となるよう努めている。学生の専門知識の充実・向上や国家試験合格率の向上を目指した教育課程の編成が期待される。公開授業の実施、事前の授業計画（指導案）作成、事後の授業検討会、学生による授業アンケートの実施と結果の公開、新任専任教員への計画的な指導、学校行事の適切な運営等、全般的に教育の質の向上に努力している。学生の基礎学力低下の問題については、新たに設立された「学生サポート・センター」との協力のもと、対策の強化が急がれると共に、その効果・成果を検証する手立ても必要である。また、学生の社会人としての基礎力強化をも視野に入れた能力・スキル開発（対人スキル、論理的思考力の育成・向上、即戦力としての人材育成等）、そのための教員研修も望まれる。シラバスの順守は必要な事ではあるが、時代のニーズに見合った授業展開も必要であり、最新の研究成果や論文内容を授業に適宜反映させていくことも大切で、そのための教員の自己研鑽が絶えず求められる。
	10	学園行事の適切な企画、円滑な運営がなされているか	4.1	4.2	
	11	授業規律を確保し、指導体制の立て直しが図られているか	4.2	3.6	
	12	関連分野の企業、関連施設等、業界団体等の連携により、教育課程の作成、見直しが行われているか	4.1	3.6	
	13	成績評価、単位認定の基準は明確になっているか	4.5	4.1	
	14	授業評価の実施、評価体制があるか	4.5	4.6	
	15	職員の能力開発のための研修が行われているか	4.2	3.4	
	16	クラス担任と教科担任の連携を密にし、学生の実態にあった指導法の確立に努めているか	4.3	3.8	
IV 学修成果	17	就職率の向上は図られているか	4.6	4.0	退学・休学・留年率の増加（ここ3年間の動向としては、低減しているとは言い難い）や、国家試験合格率の低下など、財務状況にも関連する課題は、対策の工夫・検討が必要である。また、就職分野は病院のみにとどまらず、医療・介護・福祉分野以外にも活躍しているセラピストを積極的に紹介して、広い分野での可能性について指導すると共に、卒業生を積極的に活用して、職業観、就労意識の形成・向上のための学内指導に反映するなどの工夫が求められる。
	18	退学率の低減は図られているか	4.2	3.8	
	19	卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	4.2	3.4	
V 学生支援	20	学生相談に関する体制は整備されているか	4.2	3.6	学生支援は多岐にわたるが、概ね良好である。学生の意識調査や実態調査を踏まえ、現実即した生活支援を教員間で共有する必要がある。学生への経済的支援への対応は、ほぼ充実していると言える。また、保護者との連携も適切であり、学生の校内外での行動・態度を把握できる体制が確立している。卒業生に対する支援に関しては、同窓会主催の研修会で自己研鑽の場を提供しており、知識・技術の向上に貢献しているが、本校卒業生以外の参加にも門戸を広げる検討も必要である。さらに、養成校と職能団体との協働体制を作り、より効果的な卒業支援を考案してほしい。
	21	学生の経済的側面に対する支援は整備されているか	4.1	3.9	
	22	保護者と適切に連携しているか	4.6	3.8	
	23	卒業生への支援体制はあるか	4.2	3.7	
	24	LHRなどを効果的に活用し、職業観の育成に努めているか	4.3	3.7	
	25	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4.1	3.6	
	26	学生が自己理解、自己啓発、自己実現をするための方策が整備されているか	3.8	3.8	
VI 教育環境	27	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	3.6	3.6	教育環境・施設・設備の点検・整備を怠らず継続してほしい。自然災害が増えていることから、火災や不審者にも対処できるような危機管理や危機意識を高めるための日常的な取り組みがほしい。また、学校教育の内容に関わる諸問題、例えば単位認定、個人情報管理、成績・出席管理、パワハラ・アカハラ・セクハラ等の問題、保護者や部外者への対応等に関しては、今後難しい場面も想定されることから、危機管理への共通認識が必要であろう。
	28	図書室利用の活性化が図られているか	4.2	3.1	
	29	防災に対する体制は整備されているか	4.2	3.6	
VII 学生募集	30	学生の募集は適切に行われているか	4.8	4.3	大学の開設や専門学校の大学移行化が進んでいるため、学生募集に対する戦略を練る必要がある。専門学校の特長を伝えていくと共に、本校にしかない長所・特質を訴えていく必要があり、学校説明会等で、本校に入学するメリットやリハビリテーションのやりがいを受験生に根強く説明していくことが大切である。また、PT、OTのほか STも含めたセラピスト全体を盛り上げていく視点や、3年制と4年制の区別と、その利点・特徴を分かりやすくアピールする必要もある。
	31	学生募集活動について、教育成果は正確に伝えられているか	4.5	3.9	
VIII 財務	32	中長期的に学校の財政基盤は安定していると言えるか	3.5	3.4	健全な状況といえる。ただし設備投資、学生数の減少等の課題を抱えており、将来的展望に立った中・長期にわたる健全な運営を期待したい。
	33	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.5	3.9	
IX 法令等の遵守	32	法令、専門学校設置基準等の遵守と適切な運営がなされているか	4.5	4.3	学内監査が定期的の実施され、概ね良好である。
	33	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4.6	4.0	
X 社会貢献等	34	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4.2	3.6	一層社会貢献に取り組むと共に、職業イメージを作る手助けになるような活動を広げていく必要がある。
	35	学生ボランティア活動を奨励・支援しているか	4.7	4.1	